

●第1回審議会での意見及び回答

No.	カテゴリ	質問・意見等	回答
1	見直し方法について	見直しとして、前期計画の成果等を確認するなどして、前期計画の反省に立って見直しをすべきではないか。	計画素案の8ページ左下にあるように、前期計画の見直しの中では、計画の構成に関するものや、踏まえるべき視点についての反省点があげられた。それらを踏まえながら、村民の皆さんにとっても、行政にとっても分かりやすい計画に変更することを主たる目的として、見直しを実施した。一方で、見直しの中で、前期計画に記載の事業のうち約8割の事業が現在着手されていることを確認した。
2	計画の構成について	後期計画の構成について、各分野ごとの基本計画のページに施策の一覧が掲載されているが、ここには更なる具体策は書かないということによいか。	ご認識の通り。詳細な具体策については実施計画に記載していく。
3	計画の構成について	今村に必要なのは、日用品や生鮮食品が買えるスーパーだと思っているが、例えばそういった具体策について実施計画に記載されているのか。	基本計画の商工業分野の個別施策の箇所に創業支援や企業誘致について記載があり、その施策に紐づく実施計画部分に記載していく。
4	計画の構成について	前期計画の構造から今回のピラミッド構造にしたという事だが、より理解しやすいように。一つの施策を例として抜粋し、どのように変わったのかを説明する資料を作成してほしい。	承知した。
5	実施計画について	実施計画は議会にかけないとの事だが、一般に公開されるのか。前期計画は計画の中に具体的な事業が出ていたが、今回実施計画に載る事であまり事業が目につけなくなっている。前期計画は村民が具体的な事業を見て「これをやってみたい」と思えるワクワク感のあるものだったと思うが、今回の計画では具体的なものが全部消えてしまい、ワクワク感がなくなっている。	消えたわけではなく、見直しによる整理をし、具体的な事業については実施計画に掲載している。実施計画についてはホームページ等で公開する予定。また、個別のお問合せについても丁寧に対応したい。今回の中間見直しで4つの階層に分けて、計画の構成を整えることとした。
6	村の将来像について	村の将来像「明日が待ち遠しくなるようなワクワクする楽しいふるさと」について、あまりにも抽象的な目標なので、イメージが湧かない。これまでの村の歴史背景上こういった設定となっているのか。村民がこのフレーズを見た時に、村の方向性をイメージすることができるのか。	この「基本構想」は村民の皆様や策定委員の方々の議論、協議によって紡ぎ出された「4つの基本方針」が前期計画からそのまま引き継がれている。今回の「中間見直し」では、4つの基本方針を総称するものとして、復興のその先の将来像として、現在の村の村政方針として掲げている「明日が待ち遠しくなるようなワクワクする楽しいふるさと」を再定義した。7次総策定の際には改めて住民の皆様の声を聞きながら決めていきたい。

●第1回審議会での意見及び回答

No.	カテゴリ	質問・意見等	回答
7	村の将来像について	他の自治体は将来像を公募しているところもある。このわくわくという言葉は現村長が就任時から言っている言葉のため、村長の政治のお言葉と受け止める人もいると思う。村の目標のため、次回はそこをはき違えないように目標設定した方がよいと思う。	承知した。
8	村の将来像について	村の将来像が分かりづらい。までいという言葉長く使ってきて、村外にも広く浸透している言葉なので、計画の中にもう少し入っていても良いのではないかな。	までいという言葉なくしたわけではなく、その概念は各施策などいたるところにちりばめられている。「前期計画」の変わらないコンセプトは引き継いでいて、神髓のところは変わっていないということをご理解いただきたい。また、わくわくという言葉についても、抽象的かも知れないが今回「見直し」として4つの基本方針を統合するものとして再定義した事をご理解いただきたい。なお、7次総策定の際には、改めて公募や選定委員会等、村民の皆様のご意見を反映できるよう段取りしながら進めていきたい。
9	人口目標について	人口目標の住基人口4,200人、なりわい人口1,570人という数字の根拠は何か。目標値が高いのではないかな。	住基人口については全国的に少子高齢化が叫ばれる中、村はさらに震災による避難の影響もあり、他の自治体よりも少子高齢化が進んでいる。そんな中、このまま何も対策を取らないと、人口に占める高齢者の割合が過剰となり、医療・福祉・介護サービスを利用する機会の多い高齢者を働き世代で支えることは困難となる。長期的な財政の見通しを算出することが難しいため、「〇〇人いれば村を支えられる」という数字を出すのは難しいが、今の人口規模から少しでも減少を抑えたいという視点から目標値を設定している。なりわい人口に関しては、産業団地や新規就農施設等、今後の事業と照らし合わせ積み上げた数字のため、無理な数字ではないと思っている。
10	人口目標について	人口目標について、この4,200人という数字は、現在のいわゆる二重住民票が続いていると仮定した上で目指す数字ということでしょうか。	ご認識の通り。
11	人口目標について	事務局の説明ぶりが、「人口増加しないと施策ができない」というように聞こえてしまう。本来は逆であり、「良い施策をするから人が集まる」のだと思う。「いい施策があって人口が増加する」という意識づけをしていただきたい。	承知した。
12	評価方法について	計画書の文字が多く分かりづらい点があるので、数値化してもらう方が分かりやすいと思った。難しい場合は、評価の際に達成状況を◎、○、△やABCで示していただいた方が見やすくてよいのではないかな。	今回、新たに「重要業績評価指標」を設け、目標の達成状況を数値で確認できるようにした。実際の評価の際には分かりやすく◎○△やABC標記で示していく。

●第1回審議会での意見及び回答

No.	カテゴリ	質問・意見等	回答
13	村の住宅の状況について	村に来たいが住む場所がないという声をよく聞くが、住宅の状況は今どのようなになっているのか。	村の空き家空き地バンクには現在6件ほどの空き物件がある。事業をやって分かってきたのは、移住希望者が求める住宅と空き家バンクの住宅が必ずしもマッチしないこと。空き家バンクの物件は戸建て・売買希望が多いが、移住希望者は単身・賃貸の希望が多く、マッチングが難しい。
14	農業の補助事業について	大規模農業だけでなく、出荷を目的としない、高齢者が楽しみながら農業に取り組める補助事業があってもいいと思う。そうすると村に通う人も増えるのではないか。	考え（理念）としては基本計画の施策の中に入っているかと思う。事業に落とし込める部分かと思うので、担当課と相談しながら事業展開していきたい。
15	子育て支援について	村ではこども園や学園の諸費用を無料にしているものの、入園するこどもの数は少なく、その状況について疑問を感じている。	PRの問題を一つの課題であると認識している。担当課と協議し、より積極的に情報を発信するよう努めたい。
16	子育て支援について	子育て世帯への各種助成金・祝い金について、村より高い金額の市町村もあるようだ。若い人が集まっている自治体の例を参考にしているかどうか。	他市町村の補助額の状況については、内部で共有させてもらい協議したい。
17	移住ツアーの状況について	移住ツアーの状況がどのようなになっているか教えてほしい。	村主催のツアーは年6回開催ということで実施しており、現在のべ30名程度が参加している。その他、県やふくしま圏域主催のツアー等も実施され、多くの方が村を訪れている。各種ツアーに参加した方のアンケート結果を見ると、体験型のプログラムが人気であることから、村主催のツアーも体験型のものであるため、少人数制のツアーとなっている。
18	ICTについて	ICTについて、電波状況が悪く携帯が使えない地域があり改善が必要ではないか。	電波塔を建てるのは携帯会社であり、周囲に住宅等が何もない場所よりは、どうしても人の多い、住宅の多い場所が優先される。緊急性のあるような場所に関しては、村からも要望している。